

日本の古文書保存を通じた国際交流をおこないました（2024/7/11・22）

テーマ：災害科学、災害文化、歴史資料保全、国際交流
会場：東北大学災害科学国際研究所

7月11日と22日、災害科学国際研究所災害文化アーカイブ研究分野では、災害科学国際研究所を訪問した外国人学生らとともに、日本の古文書を保全するワークショップをおこないました。

11日は、「Tohoku University STEM Summer Program 2024（TSSP2024）」の一環として、米国のワシントン大学、ペンシルバニア州立大学、カリフォルニア大学、英国のUCL、ヨーク大学、イーストアングリア大学から合わせて29名が当研究所を訪問、蝦名裕一准教授（災害文化アーカイブ研究分野）が東日本大震災での古文書保全活動や災害文化研究の講義をおこないました。その後、日本の古文書保全のワークショップとして、襖の下張り文書の保全作業をおこないました。作業では、旧家にあった古い襖の下張りとして再利用されていた古文書を、スチームや竹べらを使って1枚ずつ剥がしていくという作業です。今回の作業では、江戸時代の手紙や領収書が見つかりました。

7月22日には、UNCC（ノースカロライナ大学シャーロット校）からの学生ら約20名が当研究所を訪問、東日本大震災の3Dドキュメント映画を視聴し、蝦名准教授の講義の後、襖の下張り文書の保全活動を実施しました。学生たちは、初めて触れる和紙の感触を確かめながら、慎重に古文書を剥がす作業をおこない、1枚剥がし終わると大きな歓声があがっていました。



TSSP2024の参加者



TSSP2024での作業風景



UNCCの学生たち



UNCCの学生たちの作業風景